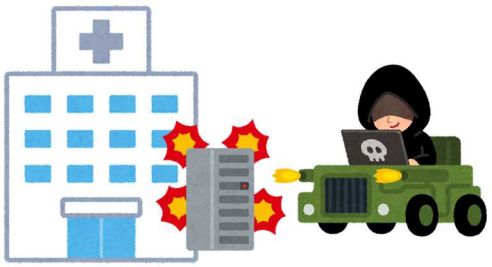
青い森のサイバーセキュリティ

令和４年12月
青森県警察本部
サイバー犯罪対策課

医療機関を狙うランサムウェア!

◎相次ぐ病院のランサムウェア被害

10月、大阪の高度医療を担う総合病院で電子カルテシステムがランサムウェア被害に遭い、緊急以外の手術や外来診療などを停止せざるを得ない事態となりました。



昨年も大阪府や徳島県などの複数の病院がランサムウェアによる被害を公表するなどしており、全国で医療機関がランサムウェアの被害を受ける事例が相次いでいます。

近年、医療機関では電子カルテシステムの導入や検査機器のオンライン化が進んでおり、カルテのほか、ＣＴやレントゲン画像なども電子データで保存されるようになっていますが、デジタル化の進展はサイバー攻撃による被害度合いの拡大にもつながることから、より強固なセキュリティーとともに、迅速な復旧体制を確保しておくことが求められます。

◎年末年始に向けた備えを

年末年始は、様々な業種で通常業務が停止することから、システム更新を行うタイミングでもあります。

システム更新は更新作業に人手を取られるため現用サーバーの監視体制が弱まるほか、新システム稼働時に思わぬ脆弱性が露呈する場合もあり、サイバー攻撃への対応が遅れる可能性があります。

更新手順書のほか、作業中や更新後にサイバー攻撃を受けた場合を想定した手順書をあらかじめ作成し、サイバーレジリエンス（サイバー視点での組織に求められる「予測力」「回復力」「適応力」「抵抗力」※）の向上を図りましょう。

※ NIST（米国国立標準技術研究所） SP800-160 Vol.2 Rev.1
「Developing Cyber-Resilient Systems: A Systems Security Engineering Approach」